

The background of the top section is a repeating geometric pattern of interlocking triangles in various shades of gray, creating a textured, crystalline effect. The Nissan Motor Corporation logo is centered in this section.

NISSAN
MOTOR CORPORATION

2021年度 第3四半期
決算報告

日産自動車株式会社
2022年2月8日

➡ 2021年度 第3四半期 実績

2021年度 見通し

(COO アシュワニ グプタ)

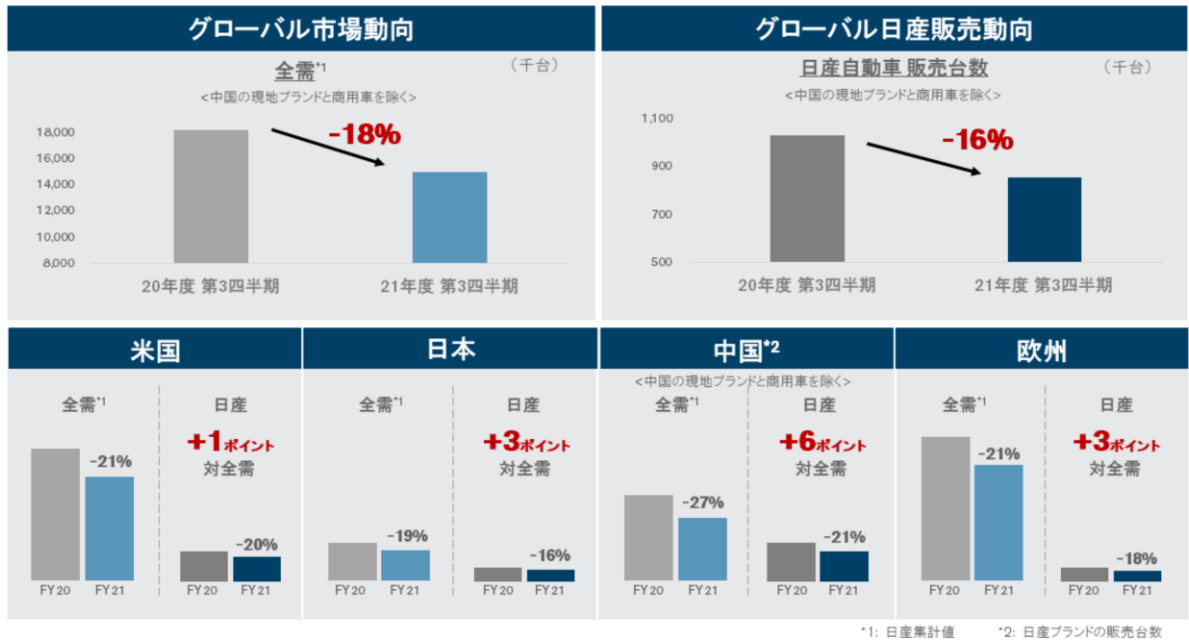
本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

第3四半期は、半導体の供給不足に加え、オミクロン株や東南アジアでの自然災害などに業界が影響を受ける中、当社は想定を上回る業績を収めました。

日産は常に、人々の安全を最優先に考えています。この場をお借りして、世界中の従業員とパートナーの皆様の懸命な努力と献身に敬意を表したいと思います。

お客さまには日頃からのご愛顧に加え、様々なご理解とご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。一部の市場においては、一部の車種の納車に遅れが生じ、お客さまにご迷惑をおかけしておりますが、日産はご希望の商品を一日も早くお届けできるよう最善の努力を尽くしてまいります。

2021年度 第3四半期(3ヵ月) 自動車市場の動向



3

NISSAN
MOTOR CORPORATION

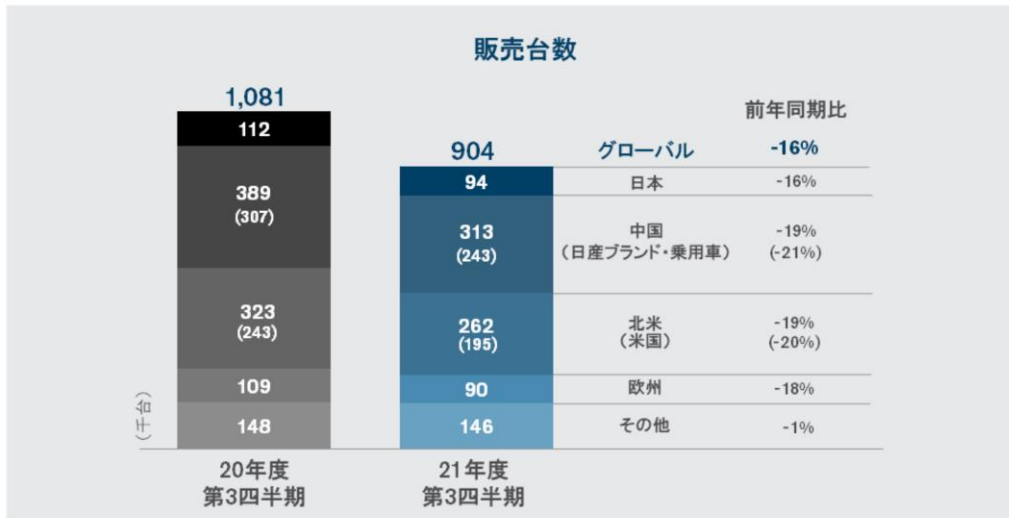
それではまず、全需の概況と、グローバルおよびコア市場における日産の販売台数の動向についてご説明します。

先に申し上げましたように、自動車産業は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大と、半導体の供給不足によるサプライチェーンへの影響に直面しています。その結果、2021年度第3四半期の3か月間のグローバル全体需要は前年から18%減少しました。

しかし、グローバルでの当社の販売台数は前年同期比で16%減にとどまり、全体需要のトレンドを2ポイント上回りました。

主要市場を見ると、米国では21%減となった全体需要に対して、当社の業績は1ポイント上回りました。日本では、19%減の全需に対して3ポイント、中国は27%減の全需に対して6ポイント、欧州は21%減の全需に対して3ポイント上回りました。

2021年度 第3四半期(3カ月) 販売実績



2021年第3四半期は、販売店の在庫が少ない中、当社の販売台数は90万4,000台となりました。現在のサプライチェーンの状況をご理解いただき、ご協力いただいている日産販売会社の皆様に心より感謝申し上げます。

国内の販売台数は94,000台、中国は31万3,000台、北米は26万2,000台、欧州は90,000台、その他市場では14万6,000台となりました。

以上の実績は、新型コロナウイルス感染拡大と重点市場における供給不足の影響の大きさを物語っています。

2021年度 第3四半期 コアモデルのパフォーマンス

セグメントシェアの推移(前年同期比)

<p>日本 ノート+オーラ</p> 	<p>第3四半期</p> <p>13.9%</p> <p>+6.6ポイント 前年同期比</p>	<p>米国 フロンティア</p> 	<p>第3四半期</p> <p>13.1%</p> <p>+7.2ポイント 前年同期比</p>
<p>米国 ローグ</p> 	<p>第3四半期</p> <p>7.3%</p> <p>+1.7ポイント 前年同期比</p>	<p>米国 パスファインダー</p> 	<p>第3四半期</p> <p>3.7%</p> <p>+0.7ポイント 前年同期比</p>
<p>中国 シルフィ</p> 	<p>第3四半期</p> <p>19.2%</p> <p>+4.6ポイント 前年同期比</p>	<p>インド マグナイト</p> 	<p>第3四半期</p> <p>4.5%</p> <p>+4.2ポイント 前年同期比</p>

NISSAN
MOTOR CORPORATION

一方、複数の重要セグメントでは人気車種の販売が好調で、全体需要の動向を上回る販売を達成し、着実にセグメント・シェアを伸ばしています。

例えば国内の小型車の「ノート」と「オーラ」のセグメント・シェアは13.9%となり、前年から6.6ポイント増加しました。

米国のミッドサイズ・ピックアップのセグメントでは更に大きな成長を実現しました。新型「フロンティア」はセグメント・シェアを前年から7.2ポイントと飛躍的に伸ばし、13.1%を記録しました。

新型「ローグ」のセグメント・シェアは7.3%に達し、前年同期に対し1.7ポイント拡大しました。

競争の極めて激しい米国の大型SUVセグメントに属する「パスファインダー」も大いに健闘し、セグメント・シェアを0.7ポイント伸ばし、3.7%を達成しました。

最も競争の激しい中国市場では、「シルフィ」が19.2%のシェアを獲得し、前年から4.6ポイント伸ばしました。2021年暦年で、「シルフィ」は中国市場で販売台数ナンバーワンのモデルとなり、前年に引き続きセグメント・トップの座を維持しています。

インドのクロスオーバーセグメントでは、「マグナイト」がセグメント・シェアを4.2ポイント伸ばし、4.5%を記録しました。

これらの重要な市場において、新型車が引き続き、お客さまから好評を得ていることを嬉しく思います。

自動車事業の進捗

革新的な商品

日本 ノート・オーラの受賞



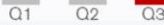
カスタマーエクスペリエンス

BUY@HOME

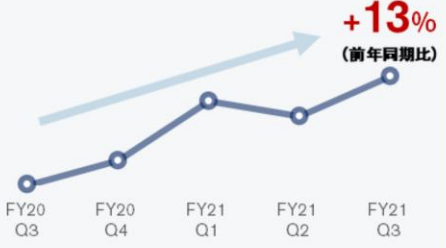


21年度 第1四半期の
2.8倍

21年度・米国のBUY@HOME
(オンライン販売)による
販売実績



グローバル 台当たり売上高



カスタマーバリュー

2021年度第3四半期のコアモデルの台当たり売上高

日本 ノート+オーラ



+23% (前年同期比)

米国 ローグ



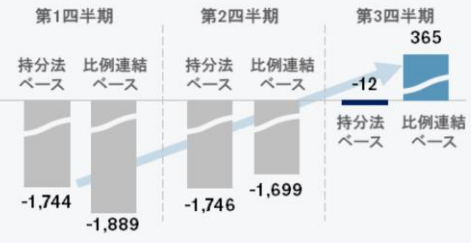
+12% (前年同期比)

欧州 キャッシュカイ



+32% (前年同期比)

21年度 自動車事業フリーキャッシュフロー(億円)



先進技術を搭載した商品がお客様から好評を得て、当社の事業は順調に推移しています。これらの新型車は、日産車ならではの品質、技術的な信頼性、革新性、価値を体現しています。

例えば、「ノート」と「オーラ」は特徴的なデザイン、電動の走り、そして洗練された静粛性が高く評価され、国内のカー・オブ・ザ・イヤー3冠を受賞しました。

商品がお客様のご要望にしっかりとお応えしていることに加え、当社のデジタル・プラットフォームがお客様のポジティブな体験を加速させ続けています。このことは、第3四半期のデジタル・プラットフォームを利用したお客様が18%となり、上期と比較してさらに1.6ポイント増加したことで実証されています。

米国など特定の市場では、「Buy at Home」のプラットフォームを通じたデジタル販売が6ポイント増加しました。このデジタル・プラットフォームは、販売店からの強い支持を得て、この販売チャンネルを利用した総販売台数は、第1四半期に比べ2.8倍に増えました。

来年度は、デジタル・カスタマー・エクスペリエンスをすべてのコア・マーケットに拡大することで、このポジティブなトレンドを継続させたいと考えています。

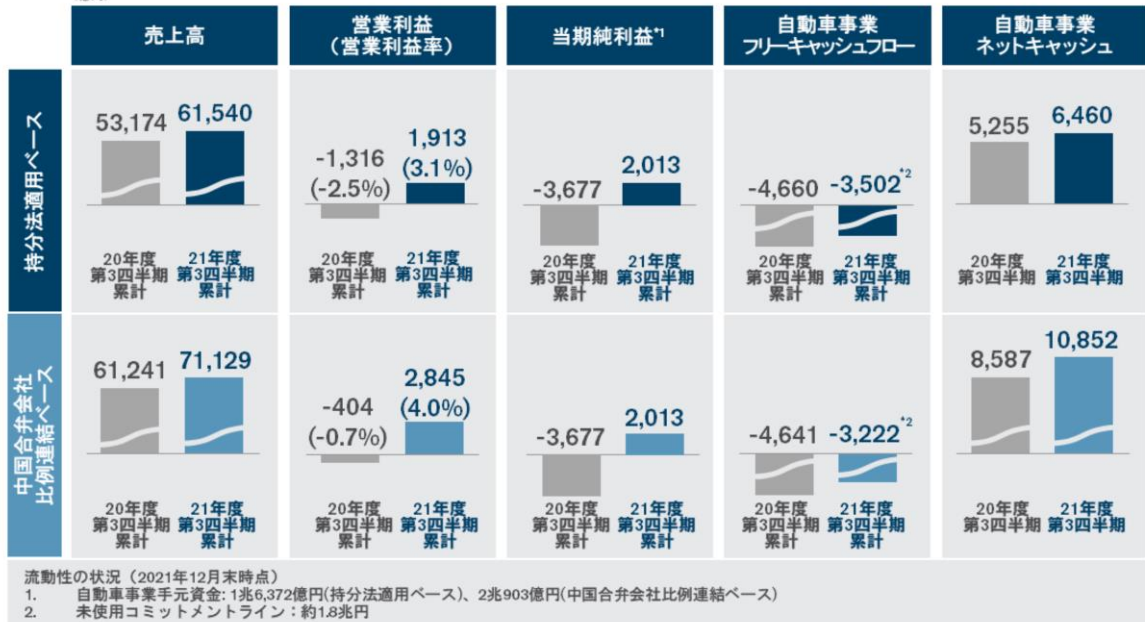
これらのポジティブなシフトのおかげで、新型車の台当たりの売上高が上昇しました。日本では、「ノート」と「オーラ」が23%上昇し、米国では新型「ローグ」が12%、欧州では新型「キャッシュカイ」が32%上昇しました。

グローバルでの台当たりの売上高は、継続的に販売の質を向上させてきたことによって着実に回復し、2021年度の第3四半期は、2020年度の第3四半期と比較すると13%上昇しています。

何よりも、2021年度第3四半期は中国合弁会社比例連結ベースで自動車事業のフリーキャッシュフローが改善に転じ、第1四半期、第2四半期のマイナスのトレンドを反転させました。中国合弁会社比例連結ベースの自動車事業のフリーキャッシュフローは365億円のプラスとなり、持分法を適用したベースでも大幅に改善しています。

2021年度 第3四半期累計 財務実績

(億円)



流動性の状況 (2021年12月末時点)

1. 自動車事業手元資金: 1兆6,372億円(持分法適用ベース)、2兆903億円(中国合弁会社比例連結ベース)
2. 未使用コミットメントライン: 約1.8兆円

*1: 親会社株主に帰属する当期純利益 *2: 2021年度第1四半期に計上したダイムラーAG株式の売却による収入+1,500億円を含む

NISSAN
MOTOR CORPORATION

次に、2021年12月末までの9か月間の財務実績についてご説明したいと思います。厳しい環境にも拘わらず、想定を上回る結果を出すことができました。

こちらが中国合弁会社比例連結ベースと持分法を適用したベースの、主な財務指標です。

2021年第3四半期累計での中国事業を除く持分法適用ベースの連結営業利益は1,913億円、売上高営業利益率は3.1%、当期純利益は2,013億円となりました。自動車事業のフリーキャッシュフローは3,502億円のマイナスとなりましたが、これは半導体の供給不足による減産を受け、運転資本が悪化した結果です。生産が回復すれば、運転資本が改善し、キャッシュフローがプラスになると見込んでいます。自動車事業のネットキャッシュは6,460億円となりました。

2021年12月末までの9か月間の中国合弁会社比例連結ベースの連結営業利益は2,845億円、売上高営業利益率は4%となり、Nissan NEXTで掲げる2021年度中に2%にするという目標を大きく上回る結果となりました。自動車事業のネットキャッシュは1兆円を超えました。

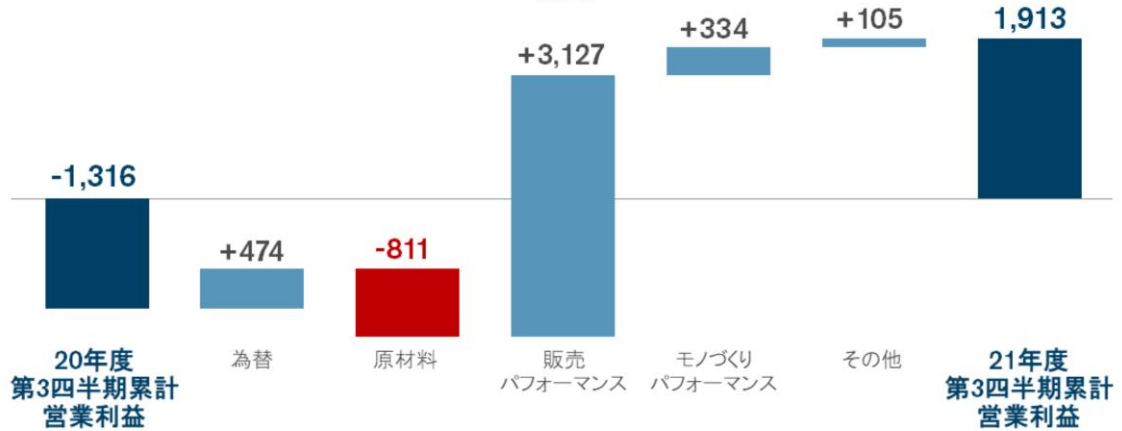
当社は引き続き高い流動性を維持しており、中国事業持分法適用ベースの自動車事業の手元資金は約1.6兆円でした。さらに、約1.8兆円の未使用のコミットメントラインを保持しています。

2021年度 第3四半期累計 財務実績

(持分法適用ベース)

21年度第3四半期累計 営業利益 対 前年同期

(億円)



21年度 第3四半期(3ヵ月) 営業利益 対前年同期:

項目	20年度 第3四半期	増減額	21年度 第3四半期
営業利益	271	+288	522
原材料	-	-413	-
販売 パフォーマンス	+	+497	+
モノづくり パフォーマンス	-	-122	-
その他	-	+1	-

NISSAN
MOTOR CORPORATION

こちらは営業利益の増減分析です。2021年12月末までの9か月間の営業利益と前年度の営業損失を比較しています。

為替変動は主に米ドル高により、増益要因となりました。

原材料価格は鋼材、アルミ、ロジウムを中心とする材料価格の高騰で、811億円の減益要因となりました。

利益を押し上げた最大の要因は販売パフォーマンスの継続的な改善で、3,127億円の増益要因となりました。その大部分は、販売の質の向上への取り組み、そして、お客さまの需要と半導体の供給を考慮しながら、コアモデルとコア市場へ戦略的に注力してきた結果によるものです。

モノづくりは主に事業効率の改善により334億円の増益要因となりました。

その他項目は105億円の増益要因となりました。

2021年度 第3四半期累計 財務実績 (持分法適用ベース)

(億円)	20年度 第3四半期累計	21年度 第3四半期累計	増減	20年度 第3四半期	21年度 第3四半期	増減
販売台数(千台)	2,780	2,906	+126	1,081	904	-177
売上高	53,174	61,540	+8,366	22,248	22,070	-178
営業利益	-1,316	1,913	+3,229	271	522	+251
営業利益率	-2.5%	3.1%	+5.6ポイント	1.2%	2.4%	+1.2ポイント
営業外損益 ^{*1}	-847	647		-116	193	
経常利益	-2,163	2,560	+4,723	155	715	+560
特別損益 ^{*2}	-1,089	713		-198	-56	
税金等調整前当期純利益	-3,252	3,273	+6,525	-43	659	+702
税金費用	-321	-1,079		-281	-286	
少数株主利益	-104	-181		-54	-46	
当期純利益	-3,677	2,013	+5,690	-378	327	+705
為替レート	(ドル/円) 106	(ユーロ/円) 122	+5	105	114	+9
			+9	125	130	+5

*1: 下記項目を含む

- 持分法による投資損益: -716億円(20年度 第3四半期累計)、909億円(21年度 第3四半期累計)、64億円(20年度 第3四半期)、278億円(21年度 第3四半期)を含む

*2: 下記項目を含む:

- 新型コロナウイルス感染拡大による操業停止等に伴う損失(純額): -354億円(20年度 第3四半期累計)

- 事業構造改革費用: -614億円(20年度 第3四半期累計)、-91億円(21年度 第3四半期累計)、-74億円(20年度 第3四半期)、-49億円(21年度 第3四半期)

- ダймラーAG株式の売却益: 761億円(21年度 第3四半期累計)

こちらは2021年12月末までの9か月間の持分法適用ベースの損益計算書です。

売上高は前年比15.7%増、金額にして8,366億円改善し6.2兆円に達しました。

連結営業利益は前年から3,229億円改善し1,913億円となり、売上高営業利益率は前年比5.6ポイント増の3.1%となりました。

当期純利益は前年から5,690億円改善し2,013億円となりました。営業利益の増加に加え、持分法適用会社の改善で増加した営業外利益と、第1四半期に売却したダイムラー株の売却益を含む特別損益の改善が寄与しました。

前年度の第3四半期までの9か月間の実績との比較に加え、右側には2021年度第3四半期の3か月間と20年度第3四半期の3か月間との比較も示しております。

2021年度 第3四半期 実績

 2021年度 見通し

2021年度 見通し (持分法適用ベース)



21年度見通し 対 20年度実績:

	20年度 実績	21年度 今回見通し
今回見通し	-1,507	2,100
前回見通し*	-1,507	1,800

	20年度 実績	21年度 今回見通し	21年度 前回見通し*
為替・規制対応及び商品性向上	0	100	100
パフォーマンス	+6,850	6,850	+6,750
新車への投資	-1,500	-1,500	-1,500
原材料	-1,750	100	-1,850

* 2021年11月9日発表の前回見通し

NISSAN
MOTOR CORPORATION

2021年度の通期見通しについてご説明したいと思います。

第3四半期累計の実績が、前回お伝えした通期予想をすでに上回っていることを踏まえ、11月の上半期決算発表時に示した営業利益の通期予想を1,800億円から2,100億円に修正いたします。

円安が進んだことにより、為替変動は100億円の増益要因となります。

また、販売の質の向上およびコストの最適化をはじめとする継続的なパフォーマンスの向上は100億円の増益要因となります。

新型車と先進技術に対する投資は計画通り実施し、Nissan Ambition 2030に基づく電動化と智能化の技術開発を推進し、将来の成長に向けた仕込みを進めていきます。

原材料については価格の前提を見直した結果、100億円の増益要因となります。

2021年度 見通し (持分法適用ベース)

(億円)	20年度 実績	21年度 前回見通し ^{*1}	21年度 今回見通し	増減 対前年 (増減率)	増減 対前回見通し ^{*1} (増減率)
販売台数 (千台)	4,052	3,800	3,800	-252 (-6.2%)	変更なし
売上高	78,626	88,000	87,100	+8,474 (+10.8%)	-900 (-1.0%)
営業利益	-1,507	1,800	2,100	+3,607 (-)	+300 (+16.7%)
営業利益率	-1.9%	2.0%	2.4%	+4.3ポイント	+0.4ポイント
当期純利益 ^{*2}	-4,487	1,800	2,050	+6,537 (-)	+250 (+13.9%)
想定為替レート ^{*3}	(ドル/円) 106 (ユーロ/円) 124	110 130	111 131	+5 +7	+1 +1

*1: 2021年11月9日発表の前回見通し

*2: 親会社株主に帰属する当期純利益

*3: 第4四半期の想定為替レートは110円(ドル/円)、129円(ユーロ/円)

こちらが2021年度通期見通しの損益計算書です。

販売台数の見通しは前回同様380万台で変更はありません。

連結売上高は前年から8,500億円近く、10%以上改善し、8兆7,100億円を見込んでいます。

当期純利益は前年から6,500億円以上改善し、2,050億円となる見込みです。

連結営業利益は前年から3,600億円改善し、2,100億円となり、売上高営業利益率は持分法適用ベースで2.4%、比例連結ベースで3.2%となる見通しです。

この強いモメンタムにより、Nissan NEXTで掲げる21年度中に中国合弁会社比例連結ベースで営業利益率2%を確保するという目標は達成できると確信しています。

最後に、日産の商品と技術がお客さまに受け入れられ、日産は着実に前進していることを改めて強調したいと思います。同時に、私たちはNissan NEXTを実現するために、業務効率の向上に向けた集中的な取り組みを続けています。

取り巻く環境は見通すことが難しい状況ですが、私たちは慎重かつ自信を持って前進し、人々の生活を豊かにするイノベーションを推進することにしっかりと集中していきます。Nissan Ambition 2030では、よりクリーンで安全で、インクルーシブな世界を実現するために、持続可能な未来に向けてギアをシフトしていきます。

その取り組みは、すでに動き出しています。私たちは電動化戦略をより一層推進し、アリアと軽EVの販売開始により、商品ラインナップを拡大していきます。また、中国ではe-POWERモデルの販売を拡大していきます。

また、今後、投入される新車には、ProPILOTシステムのように人を中心とした技術に加え、全固体電池や新たなEVプラットフォームのようなゲームチェンジャーとなる革新的な技術が搭載されます。

日産のDNAであるチャレンジ精神を活かし、コアとなる強みに集中しながら、現状に甘んじることなく、お客さまに高い価値を提供し続けます。そして、Zや、スーパーGT、フォーミュラEといったモータースポーツを通じて、お客さまに感動を提供していきます。

日産は、これまで蓄積してきた経験を活かしながら、新たな電動化の時代において成長し続けるための付加価値を生み出し、長期的な収益性の向上に寄与するビジネスチャンスを追求することで、会社を成長させていきます。日産というチーム全員がこのビジョンを共有しており、Nissan Ambition 2030とアライアンス2030によって実現することを固く決意しています。

ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでいます。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替の変動等により、実際の業績がこれらの記述と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。